

短 報

2020年に有峰湖周辺で確認したコウモリ 3 種の記録 (予察)*

清水 海渡¹⁾, 霜島 智也²⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

²⁾ 有峰森林文化村 930-1458 富山市有峰26-15

Records of Three Species of Bats Confirmed Around Lake Arimine in 2020 (Forecast)

Kaito Shimizu¹⁾, and Tomoya Shimotori²⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi,
Toyama 939-8084, Japan

²⁾ Arimine Forest Heritage Preservation Conference,
26-15 Arimine, Toyama 930-1458, Japan

1. はじめに

有峰湖は満水位標高1,088 m, 総貯水量 2 億 m³の人工ダム湖であり, 周辺はブナ群落を中心にミズナラ, オオシラビソ, クロベなどからなる自然林で構成されている(富山市科学文化センター, 1996)。

有峰湖周辺におけるコウモリ類の記録は, 現在までに7 文献11種がある。これらをまとめると, キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* (富山市科学文化センター, 1996; 村井ら, 2012, 2014; 正印, 1981), クビワコウモリ *Eptesicus japonensis* (自然博物館センターねいの里, 1985), モリアブラコウモリ *Pipistrellus endoi* (自然博物館センターねいの里, 1985), アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (正印, 1981), ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* (自然博物館センターねいの里, 1986), ヒナコウモリ *Vespertilio superans* (富山県生活環境部自然保護課, 2002; 富山県生活環境文化部自然保護課, 2012), カグヤコウモリ *Myotis frater* (自然博物館センターねいの里, 1983; 沢田, 1987), ヒメホオヒゲコウモリ (旧名: シナノホオヒゲコウモリ) *Myotis ikonnikovi* (沢田, 1987; 村井ら, 2012), モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus* (村井ら, 2012), ウサギコウモリ *Plecotus auritus* (富山市科学文化センター, 1996), コテングコウ

モリ *Murina ussuriensis* (富山市科学文化センター, 1996) となる。しかし, これらの多くは20年以上前の記録であり, 最近の生息状況についてはよくわかっていない。また, いずれの種も記録個体数は1~数頭に過ぎず, 個体群規模についての言及がない。

このような背景から, 筆者らは有峰湖周辺におけるコウモリ類の最近の生息状況を調査しようと構想しており, 今回, その予備調査を行ったので報告する。

2. 調査期間・方法

調査は2020年6月1日~11月12日(富山県林道有峰線および同真川線の開通期間)に, 任意の日時で断続的に実施した。

調査方法は, 写真撮影と標本収集とした。写真は, 日中に調査地の林道を車で移動しながら, 樹洞や公衆トイレなどのコウモリ類が好む環境を目視で確認し, 発見した個体を撮影したものである。撮影にはデジタル一眼レフカメラ(Nikon D7200+TAMRON 150–600 mm望遠レンズ)を使用した。標本は, さまざまな状況で拾得された死体を収集したものである。拾得個体は, 有峰ビジターセンターで冷凍保存により一時保管した後, 富山市科学博物館へまとめて移動させ, 仮剥製標本および頭骨標本として脊椎動物標本庫(TOYA-Ma)で保管している。

3. 結果

今回の調査では, 3ヶ所で計3種類15頭のコウモリが確認された(Table 1)。これらの個体はすべて単頭で確認され, 同所で同時に複数個体が見られた例はなかった。また, 斃死した4個体を拾得した。いずれも精巣が発達した発情期のオスであった。詳細な死因は不明であるが, いずれも頭部または胸部に, 外部からの圧力による内出血痕が認められた。

なお, 拾得個体の各計測値はSupplementary data (<https://doi.org/10.6084/m9.figshare.14031647>)に示す。

以下, 種類ごとに確認状況を記す。

3.1. キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum*

10頭が確認され, 今回確認された3種の中で最も個体数が多かった。富山県林道有峰線内東谷線にある公衆トイレ(北緯36.440845, 東経137.437305, 以後「東谷トイレ」と略す)(Fig. 1)では, 6月から11月まで毎月, 休

* 富山市科学博物館研究業績第579号

Table 1 Record details of confirmed bats.

Species name	Spot	Date	Confirmation method	Remarks
<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	Higashidani T.	4, June	Take a photo	
	Higashidani T.	27, June	Take a photo	
	Higashidani T.	17, July	Take a photo	
	Higashidani T.	4, Aug.	Take a photo	
	Higashidani T.	6, Aug.	Take a photo	
	Higashidani T.	24, Aug.	Take a photo	
	Higashidani T.	23, Sept.	Take a photo	
	Tsumetadani T.	11, Oct.	Pick up	TOYA-Ma-55
	Higashidani T.	26, Oct.	Take a photo	
<i>Plecotus auritus</i>	Higashidani T.	4, Aug.	Take a photo	
	Tsumetadani T.	1, Oct.	Pick up	TOYA-Ma-52
<i>Murina ussuriensis</i>	A.Visitor Center	5,Sept.	Pick up	TOYA-Ma-53
	A.Visitor Center	23,Sept.	Pick up	TOYA-Ma-54
	Tsumetadani T.	23,Sept.	Safe guard	Fly away after 10 minutes

Higashidani T: Higashidani Toilet; Tsumetadani T: Tsumetadani Toilet; A.Visitor Center: Arimine Visitor Center



Fig.1 The appearance of Higashidani Toilet.

息している個体が確認された。これらが同一個体である可能性もあるが、詳細は不明である。また、10月に冷タ谷キャンプ場の公衆トイレ（北緯36.471988，東経137.432900，以後「冷タ谷トイレ」と略す）において床で斃死した個体が拾得された。

3.2. ウサギコウモリ *Plecotus auritus*

2頭のみ確認された。1頭は8月4日にキクガシラコウモリが確認された東谷トイレにおいて休息している生体である（Fig. 3）。トイレ内では、2種はそれぞれ独立して休息していた。もう1頭は、10月1日，冷タ谷トイレにおいて床で斃死した個体を拾得した。



Fig.2 Resting *Rhinolophus ferrumequinum*.
Aug. 6, 2020



Fig. 3 Resting *Plecotus auritus*.
Aug. 4, 2020

3.3. コテングコウモリ *Murina ussuriensis*

生体 1 頭、斃死個体 2 頭が確認された。生体は、9 月 23 日に冷タ谷トイレの床面で動かない生存個体が確認され、タオル上に匍匐した状態でおいたところ (Fig. 4)、約 10 分後に覚醒して飛び立った。斃死個体は、9 月 5 日および 9 月 23 日に、有峰ビジターセンター（北緯 36.490897、東経 137.456026、以後「ビジターセンター」と略す）の壁面で確認された。



Fig. 4 Resting *Murina ussuriensis* on the towel.
Sept. 23, 2020

4. 考察と課題

キクガシラコウモリは、調査した全ての回で公衆トイレで休息していることを確認した。本種は本来、洞窟性のコウモリであるが、公衆トイレや廃屋などの人工物で 1～数頭で休息することが知られており (Sano, 2015)、有峰湖周辺では公衆トイレなどの人工物が、休息の場所として有用であると考えられる。ウサギコウモリおよびコテングコウモリの生体は、各 1 個体を秋に 1 回ずつ目撃したのみであった。ウサギコウモリは本来、洞窟性であるが、廃屋などの人工物を利用する事例が知られている (Fukui, 2015)。また、コテングコウモリは本来、枯れ木の樹皮下や樹洞を壻としていていると考えられているが、家屋の壁面などで休息している事例がある (Kawai, 2015)。両種ともに 1 回の目撃例のため、公衆トイレなどの人工物を積極的に利用しないのか、有峰湖周辺における絶対数が少ないだけなのかは不明である。

拾得した個体はすべて発情期のオスであった。日本産の小型コウモリは、7～8 月頃に授乳期が終わり、分散し、9～10 月の秋に発情期へ入ると考えられている (船越, 2020)。今回発見した個体については、発情したオスが、公衆トイレなどの施設で一時的に休息していた可能性が考えられるが、今回は偶発的に発見された少数個体しか調査できていないため、今後、捕獲調査による個体識別を含めた継続的かつ詳細な調査が必要である。

また今回の調査では、コウモリ類の利用する公衆トイ

レやビジターセンターなど人工物を日中に利用しているもの、偶発的に斃死したものについてのみの調査であったため、コウモリの発見種数は 3 種にとどまった。今後は、森林性コウモリ類や洞窟性コウモリ類についても、樹洞、洞窟などの休息環境において、日中および夜間利用についても詳細な調査が必要である。

5. 引用文献

- Fukui, D., 2015. *Plecotus auritus* (G. M. Allen, 1908). In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (Eds). *The Wild Mammals of Japan, Second edition*, pp. 90-91. Shoukado Book Sellers and the Mammal Society of Japan.
- 船越公威, 2020. コウモリ学 適応と進化. 299p. 東京大学出版会.
- Kawai, K., 2015. *Murina ussuriensis* (Ognev, 1913). In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (Eds). *The Wild Mammals of Japan, Second edition*, pp. 123-125. Shoukado Book Sellers and the Mammal Society of Japan.
- 村井仁志・澤田研太・後藤優介・南部久男・間宮寿頼・西岡 満・森 大輔・細川美和子・加藤智樹・見浦紗那子・永井知佳・岡圭一・白石俊明, 2012. 富山県における哺乳類の記録 (2011年). 富山の生物, (52): 39-46.
- 村井仁志・後藤優介・南部久男・澤田研太・西岡 満・細川美和子・間宮寿頼・見浦紗那子・森 大輔・永井知佳・岡圭一・白石俊明, 2014. 富山県における哺乳類の記録 (2013年). 富山の生物, (53): 109-116.
- Sano, A., 2015. *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774). In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh (Eds). *The Wild Mammals of Japan, Second edition*, pp. 58-60. Shoukado Book Sellers and the Mammal Society of Japan.
- 沢田 勇, 1987. 富山県下におけるコウモリの分布及びその内部寄生虫相, 奈良産業大学紀要, (3): 197-207.
- 正印清逸, 1981. 和田川流域の哺乳動物. 有峰の自然. pp211-213. 北陸電力株式会社.
- 自然博物館センターねいの里, 1983. ねいの里だより, (3).
- 自然博物館センターねいの里, 1985. ねいの里だより, (11).
- 自然博物館センターねいの里, 1986. ねいの里だより,

(12).
富山県生活環境文化部自然保護課, 2012. 富山県の絶滅
の恐れのある野生生物ーレッドデータブックとやま
2012, pp. 19-30. 富山県生活環境文化部自然保護課.
富山県生活環境部自然保護課, 2002. 富山県の絶滅の恐れ

のある野生生物ーレッドデータブックとやま, pp.
19-30. 富山県生活環境文化部自然保護課.
富山市科学文化センター, 1996. 常願寺川流域（有峰地
域）自然環境調査報告書. 344pp. 富山市科学文化セ
ンター.